

学校 番号	23	学校名	更級農業高等学校
----------	----	-----	----------

令和6年度学校評議員活用状況報告書

第 2 回学校評議員会 【令和7年1月31日（金）実施】

1 実施概要（協議研究事項を含む）

- 1 学校長あいさつ
- 2 学校評議員委嘱
- 3 議事
 - (1) 学校の現状について

本校を希望する中学生が増えている。体験就学やオープンスクールへの参加も昨年より多く、学科改編のアピールが届いているように思う。
 - (2) 授業評価・学校評価について

授業アンケートでは、代表的な質問の2つについて注目したい。「あなたは、この授業に主体的に取り組んでいますか。」では、「そう思う」の割合が多く、前回の平均より増加している。「あなたは、この授業に満足していますか。」については平均が前回より下がっている。教員も授業の工夫をしているが、まだまだ改善の余地があると思われる。

学校評価では、半分以上が「そう思う」「ふつう」を含めればほとんどが満足しているという結果である。しかし、コメントを見るとネガティブなものも多い。保護者アンケートも同様である。
 - (3) 生活指導部より

年間を通しての取り組みとして「自転車盗難防止啓発活動」を年12回実施している。継続していきたい。大きな自転車事故報告は1件のみ。来年度よりヘルメット着用を義務化する。ネット関連トラブルは特にないが、伝わっていないだけかもしれないので注意深く指導していきたい。
 - (4) 進路指導部より

昨年度の進路状況は進学より就職が少し多かった。公務員（千曲市役所、長野県警）に採用されている生徒もいた。また、今年度の指導日程についての説明があった。
 - (5) 生徒会より

地域活動には生徒たちも積極的である。「篠ノ井あいさつ運動」を再開し、特に7月は篠ノ井高校・長野俊英高校と合同で行った。「台湾学生交流」ではシトラスリボン作りを体験してもらった。林檎の皮むきゲームでは皮を剥けない台湾学生が多く、文化の違いを学んだ。

更農祭では昨年の大混雑を今年は解消すべく整理券の発行、販売場所の限定など工夫を凝らした。「シトラスリボンプロジェクト」では障がい者の方々に対する「思いやりの心」を本校から発信するため来校された方々に「車いすバスケット」「ゴールボール」など体験していただいた。本年度の目玉企画「校内祭」では、さらに友人をお互いに理解する良い企画となった。

部活動ではクラブ員の不足が続く中であっても全国大会、県大会に出場し活躍する生徒がいたことが校内に大いに活気をもたらした。

(6) 農業教育について

地域に支えられ多くのことが実現。「姨捨の棚田」での学習活動4年目に、棚田でオオルリシジミの羽化と産卵の確認。クララの保護繁殖。「苦参(クララ)紙」の復元なども実現できた。

企業見学した「栲酒千蔵野」から酒米づくりの補助の依頼を受け酒米栽培に挑戦。

更農祭では地域の方々に味噌、ジャム、ジュース、トマトケチャップ、福神漬など販売した。特に川中島白桃による桃ピューレの製造と成分分析は研究発表のテーマとなった。

環境を意識した研究に取り組んでいる。特に「汚泥ケーキ」の利用は化学肥料に頼らない環境を考えた課題研究となった。

地域との連携を大切にしている。「親子ふれあい農業塾」では地域の子供達との交流、または遊休農地を利用した棉の栽培を活用の研究を行い、綿を使ったワークショップを通して地域交流ができた。

花を中心に地域と交流(善光寺花回廊、篠ノ井駅前花壇、篠ノ井病院花壇など)。

フラワーアレンジメント競技では、県代表として全国大会に出場した。

「小森ナス」の普及活動が大きな目玉となった。その魅力について県内外で発信し、交流会も開催して生産者、販路の拡大を目指した。マスコミの取材もあり精力的に展開した。

地域農業への貢献を目標に省力化栽培、新たな地域ブランドの創造など取り組んだ。生徒による振り売り販売も再開した。

(7) 質疑応答・意見交換

2 今回の実施に当たって工夫したこと

11月に本校の収穫祭にお招きしている。また、第2回学校評議員会を本校の課題研究発表会の日に設定した。このように学校に来ていただく機会を増やし、生徒の様子、学習活動成果を見ていただく機会を増やした。

3 今回話題になった事項で特徴的なものとその概要

(1) 生徒の相談窓口

授業アンケートの自由記述の中に生徒が「差別は辞めてほしい」とコメントしていることが話題になった。学校としては匿名性を担保にしているのですが、どんな差別かわからないが、重く受け止めている。さらに生徒の相談窓口にはどうなっているのか質問があった。学校からは担任・生徒相談係・保健室・図書館などで対応しており、特定のものは定めず、いつでも、どこでも相談できているつもりでいたが、窓口を明確にする必要があるとご助言をいただいた。

(2) 卒業生の離職率

世間では就職で短期間で辞めてしまう様子があるが、就職後のフォロー、連絡・調査のシステムはあるか、という質問があった。本校の卒業生は長続きしている方であまり把握、フォローしていない(できていない)と返答した。また、中卒、高卒、大卒で7・5・3割が辞めるなんていわれているが、この頃の企業も新入社員を育てようという姿勢に変わってきていると返答した。

(3) 学習活動

「小森ナス」の農家の方々への講習会の反響はどうかという質問があった。おおむね好評で、講習会も継続している。しかし、「小森ナス」は割高感がある。料亭に出してもらうなど、どんな付加価値を付けたらいいのか悩んでいる。セブン-イレブン・ジャパンにも協力を求め、弁当メニューに加えてもらえるようお願いしている。また、屋代南高校のフードデザイン、松代高校の商業科とも相談していると回答した。

4 成果と課題（学校評議員会以外の活用状況を含む）

(1) 成果

本校の教育活動を理解していただくために行事や発表会の案内を年度初めに行い、予定に入れていただきやすくした。参加していただく機会を増やし生徒の様子、学校の様子を見ていただけたと感じている。また、そういう機会ごとに率直なご意見や感想をいただくことができた。評議員の皆様からは一定の評価をいただき、今後の励みとしたいと思います。

(2) 課題

地域からの期待は大きいように感じられます。来年度からの学科改編はもちろんのこと高校再編も地域からの声を大切にしなければならないと感じています。生徒の数は減るが、多様な生徒が増えている感は否めない。生徒の相談窓口や就職後のフォローも現状は問題ないから必要ないではなく、先を見越した体制作りが必要だと思われる。